

政策評価書（要旨）（事前の事業評価）

事業名	新小銃てき弾	担当部局	管理局開発計画課
政策分野	防衛装備の適正な維持・管理(研究開発)	実施時期	平成13年6～8月

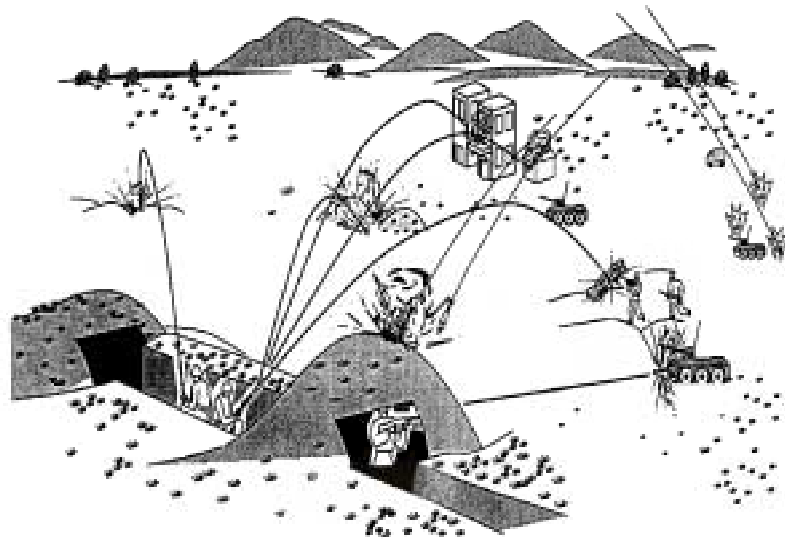
事業の内容 陸上自衛隊の普通科部隊等が近距離戦闘における地域制圧火力として使用する新小銃てき弾を開発する。	<table border="1"> <tr> <td>14</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>完了年度</td> </tr> <tr> <td colspan="3">← 試作</td> <td></td> <td>17年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>技術試験 ←-----→</td> <td></td> <td>経費総額</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>实用試験 ←-----→</td> <td>約9億円</td> </tr> </table>					14	15	16	17	完了年度	← 試作				17年度			技術試験 ←-----→		経費総額				实用試験 ←-----→	約9億円
	14	15	16	17	完了年度																				
← 試作				17年度																					
		技術試験 ←-----→		経費総額																					
			实用試験 ←-----→	約9億円																					
所要経費 約9億円(後年度負担額を含む。)																									

評価の内容	
事業の目的 小銃てき弾とは、陸上自衛隊の普通科部隊等が近距離戦闘における地域制圧火力として使用するための装備であるが、現有の小銃てき弾は、89式小銃への換装が逐次進みつつある64式小銃のみ装填が可能である。このため、 89式小銃にも適合する小銃てき弾を開発し、併せて、迫撃砲の更新に伴う射程の延伸等に対応した小銃てき弾の能力向上を図ることにより、地域制圧火力機能の隙間(注)を解消することを目的とする。	事業実施の効果・時期 1 事業実施の効果 開発により 89式小銃でのてき弾の使用が可能となる。普通科部隊の地域制圧火力機能の隙間の解消が可能となる。 2 事業実施の時期 平成17年度に開発を完了する予定である。
事業の必要性・適正性 ① 換装しつつある 89式小銃用の小銃てき弾が未装備 であるため、早期に開発する必要がある。 ② 迫撃砲の更新に伴う射程の延伸及び砲弾威力の向上により、普通科部隊の 地域制圧火力機能に隙間が生じているため、小銃てき弾の能力向上を図る必要がある。 諸外国の類似装備品は我が国の小銃には適合しないため、国内開発が適当である。	

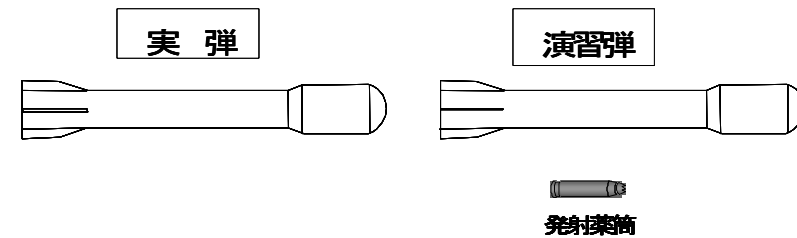
今後の対応 新小銃てき弾を開発することにより、89式小銃にもてき弾の装填が可能となり、また、普通科部隊等の地域制圧火力機能の隙間を解消することが可能になると評価できることから、14年度概算要求を実施する。	その他の参考情報 ① 「てき弾」…さく葉等を充てんした小口径の弾薬で、小銃弾の運動エネルギー等を利用して目標に向け飛ばし飛ばさせる小銃てき弾のほか、手で投てきする手りゅう弾等がある。 運用の場面、試作品図及び開発線表の詳細：別紙1 新小銃てき弾が必要とされる地域制圧火力機能の隙間の概念図、諸外国の類似装備及び現有装備品との比較：別紙2 注：地域制圧火力機能の隙間…迫撃砲の近限界(弾着地点から、迫撃砲の前方に展開する味方部隊を最低限間隔させておかなければならない距離)と手りゅう弾の投てき距離との間に生じる、射撃できない範囲
---	---

新小銃てき弾

運用の場面



試作品図



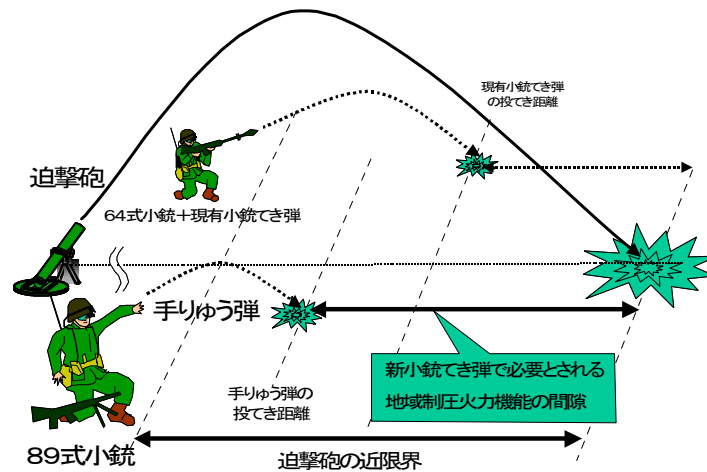
開発線表

10	11	12	13	14	15	16	17
研 試 新小銃てき弾(その1) の 研 究 試 作		部 研		試 作 新小銃てき弾			
研 試 新小銃てき弾(その2) の 研 究 試 作		所内試験		技術試験		実用試験	

諸外国の類似装備との比較

型 名	新小銃てき弾	HEAT-APERS-FRAG	40mm AP/AV	HE-AP-REL-35 BTS M235	BT/AT-44
国 名	日 本	フランス (Luchaire)	フランス (Giat)	ベルギー (MECAR)	イスラエル (TAAS)
発射方式	弾 丸 ト ラ ッ プ 方 式 (注1)				
安全性	後方飛散物 発生防止型	H3-4年の性能確 認試験で、安全 上の問題から、 適合しないこと を確認		安全上の問題から、適合しない可能性が極めて高い	
小銃への 適合性	89式及び64式 小銃に適合				
弾 種	多目的弾 (対人及び対軽装甲効果)				
最大射程	* 1	* 1 . 2	* 1 . 2 6	* 1	* 0 . 9

新小銃てき弾が必要とされる地域制圧火力機能の間隙の概念図



現有装備品との比較

	新小銃てき弾	現有装備
発 射 方 式	弾丸トラップ方式	発射薬筒方式 (注2)
小銃 適 合 性	8 9 式 及 び 6 4 式 小 銃	6 4 式 小 銃
弾 種	実弾(対人及び対軽装甲効果) 演習弾	対人弾(手りゅう弾+てき弾発射補助筒) 対戦車弾(M31) 演習弾
最 大 射 程	* 1 . 9	* 1
重 量	* 1 以下	* 1 (M31)

注1: 「弾丸トラップ方式」・・・小銃てき弾を発射する方式の1つで、小銃から発射された通常の小銃用銃弾を、てき弾内部の弾丸トラップと呼ばれる機構部分で捕捉し、発射薬の燃焼ガス及び弾丸の運動エネルギーにより、てき弾を飛ばさせる。発射薬筒方式に比べ、長射程が確保できる。
 注2: 「発射薬筒方式」・・・小銃てき弾を発射する方式の1つで、通常の小銃用銃弾により発射するのではなく、専用のてき弾薬筒を使用し、発射薬の燃焼ガスにより、てき弾を飛ばさせる。
 注3: *印の数値は、相対比較値